

令和2年8月25日

報道機関 各位

慢性便秘症処方別の関連要因が明らかに

国立大学法人富山大学医師キャリアパス創造センター（第三内科）三原弘 助教と第三内科安田一朗 教授、疫学・健康政策学 山田正明 助教らのグループは、慢性便秘薬であるマグネシウム下剤は加齢と、刺激性下剤は女性、高血圧治療薬、低気温地域、運動不足とそれぞれ関連していることを明らかにしました。

本研究結果は8月24日、『ビーエムシー・ガストロエンテロロジー (BMC gastroenterology)』電子版に掲載されました。

慢性便秘症（注1）は全国民の5%が罹患し、高齢者で頻度が高く根本治療を含めた対策が必要となっています。現在まで、慢性便秘症は、女性で頻度が高く、年齢または低外気温、人種、社会経済、生活習慣などの危険因子が知られていましたが、本研究では全国データベース（NDB）を用い、便秘薬の種類別に関連因子を検討したところ、マグネシウム下剤（注2）は加齢と、刺激性下剤（注3）は女性、高血圧治療薬、低気温地域、運動不足とそれぞれ関連していることが判明しました。未だ原因不明の便秘症の病態を解明したり、体温調整や積極的な運動が便秘症改善につながる患者集団を特定したりする際に重要な情報を提供することが期待されます。

つきましては、下記にもとづき取材・報道の方よろしくお取り計らい願います。

記

1. 発表内容
別紙のとおり。

2. 報道解禁時間
2020年8月25日（日本時間）
理由：米国時間2020年8月24日に雑誌BMC gastroenterologyに掲載されたため。

3. 研究に関する取材・問合せ先
富山大学医師第三内科講座
三原弘
e-mail: mighty [@] med.u-toyama.ac.jp
TEL: 076-434-7301

別紙資料

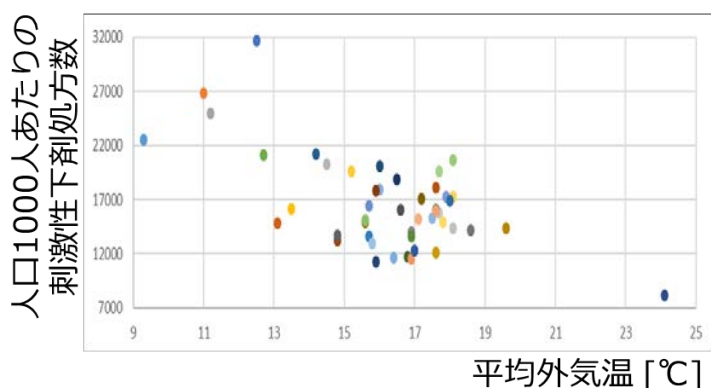
1. 発表のポイント

- ・慢性便秘症は高頻度疾患だが原因不明で、女性に多く、年齢または低外気温、人種、社会経済、生活習慣などの危険因子が知られていたが、国家レベルのデータベースを用いた研究は皆無であった。
- ・本研究では厚生労働省等が公開している全国データベースを用いて、便秘薬毎の関連因子を検討した。
- ・マグネシウム下剤は加齢と、刺激性下剤は女性、高血圧治療薬、低気温地域、運動不足とそれぞれ関連していることが判明した。
- ・慢性便秘症の分類や病態解明、病態別の新規治療開発に対して重要な情報が提供された。

2. 研究の概要

厚生労働省によって公開されている 2016 年の全国データベースを用いて、全 47 都道府県別の便秘治療薬、高血圧薬治療薬、血管拡張薬の健康保険処方請求件数、健康診断情報、アンケート回答結果を取得した。また、同年の人口、気候、社会経済的情報を総務省、国土地理院のオンラインデータベースから取得した。人口当たりの各便秘治療薬処方件数と各項目の間の相関を算出後、重回帰分析を行ったところ、加齢がマグネシウム下剤使用の唯一の有意な危険因子であり、女性、高血圧症治療薬、低外気温、運動不足が刺激性下剤使用の危険因子であることが判明した。これらの結果は、未だ原因不明の便秘症の病態を解明したり、体温調整や積極的な運動が便秘症改善につながる患者集団を特定したりする際の重要な情報となる。

図 都道府県別の平均外気温と刺激性下剤処方率の関連



3. 発表論文

【論文名】

Factors correlated with drug use for constipation: perspectives from the 2016 open Japanese National Database



【雑誌名】

BMC gastroenterology

【著者】

Hiroshi Mihara, Aiko Murayama, Sohachi Nanjo, Takayuki Ando, Kazuto Tajiri, Haruka Fujinami, Masaaki Yamada, Ichiro Yasuda

4. 用語説明

<補足・用語説明>

注1) 慢性便秘症

慢性便秘症診療ガイドライン 2017において「便秘とは、本来体外へ排出すべき糞便を十分量かつ快適に排出できない状態」と定義された。日本人の約5%が罹患しており、高齢化とともに社会問題となっている。

注2) マグネシウム下剤

日本で最も広く使用されている浸透圧性下剤。近年、血中マグネシウム上昇の危険性が知られるようになってきている。

注3) 刺激性下剤

センノサイド、ピコスルファートなどの大腸を刺激し、排便を誘発させる下剤の総称。長期連用で耐性化が問題となっている。

【本件に関する問い合わせ先】

富山大学 医学部（第三内科）

三原 弘

e-mail: mighty [@] med.u-toyama.ac.jp

TEL. 076-434-7545